校異源氏物語・するつむ花

思へともなをあかさりしゆふかほの露にをくれし心地をとし月ふれとおほしわすれすこゝもかしこもうちとけぬかきりのけしきはみ心ふかきかたの御いとましさにけちかくうちとけたりしあはれににる物なう恋しくおもほえ給ふいかてこと　くしきおほえはなくいとらうたけならむ人のつゝましき事なからむみつけてしかなとこりすまにおほしわたれはすこしゆへつきてきこゆるわたりは御みゝとゝめ給はぬくまなきにさてもやとおほしよるはかりのけはひあるあたりにこそひとくたりをもほのめかし給ふめるになひきゝこえすもてはなれたるはおさ　くあるましきそいとめなれたるやつれなう心つよきはたとしへなうなさけをくるゝまめやかさなとあまり物のほとしらぬやうにさてしもすくしはてすなこりなくくつをれてなを　くしきかたにさたまりなとするもあれはの給ひさしつるもおほかりけるかのうつせみをものゝおり　くにはねたうおほしいつおきの葉もさりぬへきかせのたよりある時はおとろかし給ふおりもあるへしほかけのみたれたりしさまはまたさやうにてもみまほしくおほすおほかたなこりなきものわすれをそえしたまはさりける左衛門のめのとゝて大弐のさしつきにおほいたるかむすめたいふの命婦とてうちにさふらふわかむとほりの兵部のたいふなるむすめなりけりいといたういろこのめるわか人にてありけるを君もめしつかひなとし給はゝはちくせむのかみのめにてくたりにけれはちゝ君のもとをさとにてゆきかよふ故ひたちのみこのすゑにまうけていみしうかなしうかしつき給ひし御むすめ心ほそくてのこりゐたるをものゝついてにかたりきこえけれはあはれのことやとて御心とゝめてとひきゝ給ふ心はへかたちなとふかきかたはえしり侍らすかいひそめ人うとうもてなし給へはさへきよひなとものこしにてそかたらひ侍るきむをそなつかしきかたらひ人とおもへるときこゆれはみつのともにていまひとくさやうたてあらむとてわれにきかせよちゝみこのさやうのかたにいとよしつきてものし給ふけれはをしなへてのてにはあらしとなむおもふとの給へはさやうにきこしめすはかりにはあらすや侍らむといへと御心とまるはかりきこえなすをいたうけしきはましやこのころのおほろ月夜にしのひてものせむまかてよとの給へはわつらはしとおもへとうちわたりものとやかな

るはるのつれ　くにまかてぬちゝの大輔の君はほかにそすみけるこゝには時
　くそかよひける命婦はまゝはゝのあたりはすみもつかすひめ君の御あたりを
むつひてこゝにはくるなりけりのたまひしもしるくいさよひの月おかしきほと
におはしたりいとかたはらいたきわさかなものゝねすむへき夜のさまにも侍ら
さめるにときこゆれとなをあなたにわたりてたゝひところゑももよをしきこえよ
むなしくてかへらむかねたかるへきをとの給へはうちとけたるすみかにすへた
てまつりてうしろめたうかたしけなしとおもへとしむてむにまいりたれはまた
かうしもさなからむめのかおかしきをみいたしてものし給よきおりかなと思ひ
て御ことのねいかにまさり侍らむと思給へらるゝよのけしきにさそはれ侍りて
なむ心あはたゝしきいていりにえうけたまはらぬこそくちをしけれといへはき
ゝしる人こそあなれもゝしきにゆきかう人のきくはかりやはとてめしよするも
あいなういかゝきゝ給はむとむねつふるほのかにかきならし給ふおかしうきこ
ゆなにはかりふかきてならねとものゝねからのすちことなるものなれはきゝに
くゝもおほされすいといたうあれわたりてさひしき所にさはかりの人のふるめ
かしうところせくかしつきすへたりけむなこりなくいかにおもほしのこす事な
からむかやうの所にこそはむかしものかたりにもあはれなる事ともゝありけれ
なと思ひつつけても物やいひよらましとおほせとうちつけにやおほさむと心は
つかしくてやすらひ給命婦かとあるものにていたうみゝならさせたてまつらし
と思ひけれはくもりかちに侍るめりまらうとのこむと侍りつるいとひかほにも
こそいま心のとかにをみかうしまいりなむとていたうもそゝのかさてかへりた
れはなか　くなるほとにてもやみぬるかなものきゝわくほとにもあらてねたう
との給ふけしきおかしとおほしたりおなしくはけちかきほとのたちきゝせさせ
よとの給へと心にくゝてとおもへはいてやいとかすかなるありさまに思ひきえ
て心くるしけにものし給ふめるをうしろめたきさまにやといへはけにさもある
事にはかに我も人もうちとけてかたらふへき人のきはゝきはとこそあれなとあ
はれにおほさるゝ人の御ほとなれはなをさやうのけしきをほのめかせとかたら
ひ給ふまたちきり給へるかたやあらむいとしのひてかへりたまふうへのまめに
おはしますともてなやみきこえさせ給ふこそおかしうおもふ給へらるゝおり
　く侍れかやうの御やつれすかたをいかてかは御らむしつけむときこゆれはた
ちかへりうちわらひてこと人のいはむやうにとかなあらはされそこれをあた
　くしきふるまひといはゝ女のありさまくるしからむとのたまへはあまりいろ
めいたりとおほしており　くかうの給ふをはつかしと思ひてものもいはすしむ

殿のかたに人のけはひきくやうもやとおほしてやをらたちのき給ふすいかいのたゝすこしおれのこりたるかくれのかたにたちより給ふにもとよりたてるおとこありけりたれならむ心かけたるすきものありけりとおほしてかけにつきてたちかくれ給へはとうの中将なりけりこのゆふつかたうちよりもろともにまかて給ひけるやかて大殿にもよらす二条の院にもあらてひきわかれ給けるをいつちならむとたゝならてわれもゆくかたあれとあとにつきてうかゝひけりあやしきむまにかりきぬすかたのないかしろにてきけれはえしりたまはぬにさすかにかうことかたにいりたまひぬれは心もえす思ひけるほとにものゝねにきゝついてたてるにかへりやいて給ふとしたまつなりけりきみはたれともえみわき給はてわれとしられしとぬきあしにあゆみ給ふにふとよりてふりすてさせ給へるつらさに御をくりつかうまつりつるは

もろともにおほうち山はいてつれといるかたみせぬいさよひのつきとうらむるもねたけれとこの君とみ給ふすこしおかしうなりぬ人のおもひよらぬ事よとにくむ　く

さとわかぬかけをはみれとゆく月のいるさの山をたれかたつぬるかうしたひありかはいかにせさせ給はむときこえ給まことはかやうの御ありきにはすいしむからこそはかはかしきこともあるへけれをくらさせ給はてこそあらめやつれたる御ありきはかる　くしき事もいてきなとをしかへしいさめたてまつるかうのみみつけらるゝをねたしとおほせとかのなてしこはえたつねしらぬをもきこうに御心のうちにおほしいつをの　くちきれるかたにもあまえてえゆきわかれ給はすひとつくるまにのりて月のおかしきほとにくもかくれたるみちのほとふえふきあはせて大殿におはしぬさきなともをはせ給はすしのひいりて人みぬらうに御なをしともめしてきかへ給つれなういまくるやうにて御ふえともふきすさひておはすれはおとゝれいのきゝすくし給はてこまふえとりいて給へりいと上すにおはすれはいとおもしろうふき給御ことめしてうちにもこのかたに心えたる人　くにひかせ給ふ中つかさのきみわさとひはゝひけと頭の君心かけたるをもてはなれてたゝこのたまさかなる御けしきのなつかしきをはえそむききこえぬにをのつからかくれなくて大宮なともよろしからすおほしなりたれはものおもはしくはしたなきこゝちしてすさましけによりふしたりたえてみたてまつらぬ所にかけはなれなむもさすかに心ほそくおもひみたれたり君たちはありつるきむのねをおほしいてゝあはれけなりつるすまゐのさまなともやうかへておかしう思ひつゝけあらまし事にいとおかしうらうたき人のさてとし月をか

さねゐたらむときみそめていみしう心くるしくは人にもゝてさはかるはかりやわか心もさまあしからむなとさへ中将は思ひけりこの君のかうけしきはみありき給をまさにまてはすくし給ひてむやとなまねたうあやうかりけりそのゝちこなたかなたよりふみなとやり給へしいつれもかへり事みえすおほつかなく心やましきにあまりうたてもあるかなさやうなるすまひする人はもの思ひしりたるけしきはかなき木くさそらのけしきにつけてもとりなしなとして心はせをしはからるゝおり　くあらむこそあはれなるへけれをもしとてもいとかうあまりうもれたらむは心つきなくわるひたりと中将はまいて心いられしけりれいのへたてきこえ給はぬこゝろにてしか　くのかへり事はみ給や心みにかすめたりしこそはしたなくてやみにしかとうれふれはされはよいひよりにけるをやとほゝゑまれていさみむとしも思はねはにやみるとしもなしといらへ給を人わきしけると思ふにいとねたし君はふかうしもおもはぬ事のかうなさけなきをすさましくおもひなり給にしかとかうこの中将のいひありきけるをことおほくいひなれたらむ方にそなひかむかししたりかほにてもとの事をおもひはなちたらむけしきこそうれはしかるへけれとおほして命婦をまめやかにかたらひ給おほつかなくもてはなれたる御けしきなむいと心うきすき　くしきかたにうたかひよせ給にこそあらめさりとみしかき心はへつかはぬものを人の心ののとやかなる事なくておもはすにのみあるになむをのつからわかあやまちにもなりぬへき心のとかにておやはらからのもてあつかひうらむるもなう心やすからむ人はなか　くなむらうたかるへきをとの給へはいてやさやうにおかしきかたの御かさやとりにはえしもやとつきなけにこそみえ侍れひとへにものつゝみしひきいりたるかたはしもありかたうものし給ふ人になむとみるありさまかたりきこゆらう　くしうかとめきたる心はなきなめりいとこめかしうおほとかならむこそらうたくはあるへけれとおほしわすれすの給ふわらはやみにわつらひ給人しれぬものをもひのまきれも御心のいとまなきやうにてはるなつすきぬ秋のころほひしつかにおほしつゝけてかのきぬたのをともみゝにつきてきゝにくかりしさへ恋しうをほしいてらるゝまゝにひたちの宮にはしは　くきこえ給へとなをおほつかなうのみあれはよつかす心やましうまけてはやましの御心さへそひて命婦をせめ給いかなるやうそいとかゝる事こそまたしらねといとものしとおもひてのたまへはいとおしと思ひてもてはなれてにけなき御事ともおもむけ侍らすたゝおほかたの御ものつゝみのわりなきにてをえさしいて給はぬとなむみ給ふるときこゆれはそれこそはよつかぬ事なれものおもひしるましきほとひとり身をえ心にま

かせぬほとこそ事はりなれなに事も思しつまり給へらむと思ふこそそこはかとなくつれ　くに心ほそうのみおほゆるをおなし心にいらへ給はむはねかひかなふ心ちなむすへきなにやかやとよつけるすちならてそのあれたるすのこにたゝすまゝほしきなりいとうたて心えぬ心ちするをかの御ゆるしなくともたはかれかし心いられしうたてあるもてなしにはよもあらしなとかたらひ給ふなを世にある人のありさまをおほかたなるやうにてきゝあつめみゝととめ給くせのつき給へるをさう　くしきよひゐなとはかなきついてにさる人こそとはかりきこえいてたりしにかくわさとかましうのたまひわたれはなまわつらはしくをむな君の御ありさまもよつかはしくよしめきなともあらぬを中　くなるみちひきにいとおしき事やみえむなむと思ひけれと君のかうまめやかにの給ふにきゝいれさらむもひか　くしかるへしちゝみこおはしけるおりにたにふりにたるあたりとてをとなひきこゆる人もなかりけるをましていまはぬさちはくる人もあとたえたるにかくよにめつらしき御けはひのもりにほひくるをはなま女はらなともゐみまけてなをきこえ給へとそゝのかしたてまつれとあさましうものつゝみしたまふ心にてひたふるにみもいれ給はぬなりけり命婦はさらはさりぬへからんおりにものこしにきこえ給はむほと御心につかすはさてもやみねかし又さるへきにてかりにもおはしかよはむをとかめ給へき人なしなとあためきたるはやり心はうち思ひてちゝきみにもかゝる事なともいはさりけり八月廿よ日よひすくるまてまたるゝ月の心もとなきにほしのひかりはかりさやけくまつのこすゐふく風のをと心ほそくていにしへの事かたりいてゝうちなきなとし給いとよきおりかなと思ひて御せうそこやきこえつらむれいのいとしのひておはしたり月やう　くいてゝあれたるまかきのほとうとましくうちなかめ給ふにきむそゝのかされてほのかにかきならし給ほとけしうはあらすすこしけちかういまめきたるけをつけはやとそみたれたる心には心もとなくおもひいたる人めしなき所なれは心やすくいりたまふ命婦をよはせ給いましもおとろきかほにいとかたはらいたきわさかなしか　くこそおはしましたなれつねにかううらみきこえ給ふを心にかなはぬよしをのみいなひきこえ侍れはみつからことはりもきこえしらせむとの給ひわたるなりいかゝきこえかへさむなみ　くのたはやすき御ふるまひならねは心くるしきをものこしにてきこえ給はむ事きこしめせといへはいとはつかしと思て人にものきこえむやうもしらぬをとておくさまへゐさりいり給さまいとうゐ　くしけなりうちわらひていとわか　くしうおはしますこそ心くるしけれかきりなき人もおやなとおはしてあつかひうしろみきこえ給ふほとこそわか

ひたまふもことはりなれかはかり心ほそき御ありさまになをよをつきせすおほしはゝかるはつきなうこそとをしへきこゆさすかに人のいふ事はつようもいなひぬ御心にていらへきこえてたゝきけとあらはかうしなとさしてはありなむとの給すのこなとはひむなう侍りなむをしたちてあは　くしき御心なとはよもなといとよくいひなしてふたまのきはなるさうしてつからいとつよくさして御しとねうちをきひきつくろふいとつゝましけにおほしたれとかやうの人にものいふらむ心はへなとも夢にしり給はさりけれは命婦のかういふをあるようこそはと思ひてものし給めのとたつおい人なとはさうしにいりふしてゆふまとひしたるほとなりわかき人二三人あるはよにめてられ給ふ御ありさまをゆかしきものに思ひきこえて心けさうしあへりよろしき御そたてまつりかへつくろひきこゆれはさうしみはなにの心けさうもなくておはすおとこはいとつきせぬ御さまをうちしのひよういし給へる御けはひいみしうなまめきてみしらむ人にこそみせめはへあるましきわたりをあないとおしと命婦はおもへとたゝおほとかにものし給ふをそうしろやすうさしすきたる事はみえたてまつり給はしとおもひけるわかつねにせめられたてまつるつみさりことに心くるしき人の御もの思ひやいてこむなとやすからす思ひゐたり君は人の御ほとをおほせはされくつかへるいまやうのよしはみよりはこよなうおくゆかしうとおほさるゝにいたうそゝのかされてゐさりより給へるけはひしのひやかにえひのかいとなつかしうかほりいてゝおほとかなるをされはよとおほすとしころ思ひわたるさまなといとよくの給つゝくれとましてちかき御いらへはたえてなしわりなのわさやとうちなけき給ふ

いくそたひ君かしゝまにまけぬらんものないひそといはぬたのみにのたまひもすてゝよかしたまたすきくるしとの給ふ女君の御めのとこししうとてはやりかなるわか人いと心もとなうかたはらいたしと思ひてさしよりてきこゆ

かねつきてとちめむことはさすかにてこたえまうきそかつはあやなきいとわかひたるこゑのことにおもりかならぬを人つてにはあらぬやうにきこえなせはほとよりはあまえてときゝ給へとめつらしきかなか　くくちふたかるわさかな

いはぬをもいふにまさるとしりなからをしこめたるはくるしかりけりなにやかやとはかなき事なれとおかしきさまにもまめやかにもの給へとなにのかひなしいとかゝるもさまかはりおもふかたことにものし給ふ人にやとねたくてやをらをしあけていりたまひにけり命婦あなうたてたゆめ給へるといとおしけれ

はしらすかほにてわかかたへいにけりこのわか人ともはたよにたくひなき御あ
りさまのをときゝにつみゆるしきこえておとろおとろしうもなけかれすたゝお
もひもよらすにはかにてさる御心もなきをそ思ひけるさうしみはたゝわれにも
あらすはつかしくつゝましきよりほかの事またなけれはいまはかゝるそあはれ
なるかしまたよなれぬ人うちかしつかれたるとみゆるし給ふものから心えすな
まいとおしとおほゆる御さまなりなに事につけてかは御心のとまらむうちうめ
かれてよふかういて給ひぬ命婦はいかならむとめさめてきゝふせりけれとしり
かほならしとて御をくりにともこはつくらす君もやをらしのひていて給にけり
二条の院におはしてうちふし給ひてもなを思ふにかなひかたきよにこそとおほ
しつゝけてかるらかならぬ人の御ほとを心くるしとそおほしける思ひみたれて
おはするに頭中将おはしてこよなき御あさいかなゆへあらむかしとこそ思ひ給
へらるれといへはおきあかり給て心やすきひとりねのとこにてゆるひにけりや
うちよりかとの給へはしかまかて侍るまゝなりすさく院の行幸けふなむかく人
まひ人さためらるへきよしよへうけたまはりしをおとゝにもつたへ申さむとて
なむまかて侍るやかてかへりまいりぬへう侍りといそかしけなれはさらはもろ
ともにとて御かゆこはいひめしてまらうとにもまいり給てひきつゝけたれとひ
とつにたてまつりてなをいとねふたけなりととかめいてつゝかくい給事おほか
りとそうらみきこえ給ふこととともおほくさためらるる日にてうちにさふらひく
らし給つかしこにはふみをたにといとをしくおほしいてゝゆふつかたそありけ
る雨ふりいてゝ所せくもあるにかさやとりせむとはたおほされすやありけむか
しこにはまつほとすきて命婦もいといとをしき御さまかなと心うくおもひけり
さうしみは御心のうちにはつかしう思ひ給てけさの御ふみのくれぬれとなか
くとかとも思ひわき給はさりけり

ゆふきりのはるゝけしきもまたみぬにいふせさそふるよひのあめかなくも
ままちいてむほといかに心もとなうとありおはしますましき御けしきを人くに
むねつふれておもへとなをきこえさせ給へとそゝのかしあへれといとゝおもひ
みたれ給へるほとにてえかたのやうにもつゝけたまはねはよふけぬとてしうし
それいのをしへきこゆる

はれぬよの月まつさとをおもひやれおなし心になかめせすともくち　くに
せめられてむらさきのかみのとしへにけれははひをくれふるめいたるにてはさ
すかにもしつよう中さたのすちにてかみしもひとしくかい給へりみるかひなう
うちをき給ふいかにをもふらんと思ひやるもやすからすかゝることをくやしな

とはいふにやあらむさりとていかゝはせむわれはさりとも心なかくみはてゝむ
とおほしなす御心をしらねはかしこにはいみしうそなけい給けるおとゝ夜にい
りてまかて給にひかれたてまつりて大殿にをはしましぬ行幸のことをけふあり
とおもほして君たちあつまりての給ひをの　くまひともならひ給ふをそのころ
の事にてすきゆくものゝねともつねよりもみゝかしかましくてかた　くいとみ
つゝれゐの御あそひならす大ひちりきさくはちのふえなとのおほこゑをふきあ
けつゝたいこをさへかうらむのもとにまろはしよせててつからうちならしあそ
ひおはさふす御いとまなきやうにてせちにおほす所はかりにこそぬすまはれ給
へれかのわたりにはいとをほつかなくてあきくれはてぬなをたのみこしかひな
くてすきゆく行幸ちかくなりてしかくなとのゝしるころそ命婦はまいれるいか
にそなととひたまいていとをしとはおほしたりありさまきこえていとかうもて
はなれたる御心はえはみたまふる人さへ心くるしくなとなきぬはかりおもへり
心にくゝもてなしてやみなむとおもへりし事をくたいてける心もなくこの人の
おもふらむをさへおほすさうしみのものはいはておほしうつもれ給らむさまお
もひやり給ふもいとおしけれはいとまなきほとそやわりなしとうちなけい給て
ものおもひしらぬやうなる心さまをこらさむと思ふそかしとほゝゑみ給へるわ
かううつくしけなれはわれもうちゑまるゝ心ちしてわりなの人にうらみられ給
ふ御よはひやおもひやりすくなう御心のまゝならむもことはりとおもふこの御
いそきのほとすくしてそ時　くおはしけるかのむらさきのゆかりたつねとり給
ひてそのうつくしみに心いり給ひて六条わたりにたにかれまさりたまふめれは
ましてあれたるやとはあはれにおほしをこたらすなからものうきそわりなかり
けると所せき御ものはちをみあらはさむの御心もことになうてすきゆくをまた
うちかへしみまさりするやうもありかしてさくりのたとたとしきにあやしう心
えぬ事もあるにやみてしかなとおもほせとけさやかにとりなさむもまはゆしう
ちとけたるよひゐのほとやをらいり給ひてかうしのはさまよりみ給ひけりされ
とみつからはみえ給へくもあらすき丁なといたくそこなはれたるものからとし
へにけるたちとかはらすおしやりなとみたれねは心もとなくてこたち四五人ゐ
たり御たいひそくやうのもろこしのものなれとひとわろきになにのくさはひも
なくあはれけなるまかてゝ人　くくふすみのまはかりにそいとさむけなる女は
らしろききぬのいひしらすすゝけたるにきたなけなるしひらひきゆひつけたる
こしつきかたくなしけなりさすかにくしをしたれてさしたるひたいつきないけ
うはう内侍所のほとにかゝるものともあるはやとおかしかけても人のあたりに

ちかうふるまふものともしりたまはさりけりあはれさもさむきとしかないのち
なかけれはかゝる世にもあふものなりけりとてうちなくもありこ宮をはしまし
し世をなとてからしと思ひけむかくたのみなくてもすくるものなりけりとてと
ひたちぬへくふるふもありさま　くに人わろき事ともをうれへあへるをきゝ給
もかたはらいたけれはたちのきてたゝいまおはするやうにてうちたゝき給ふそ
ゝやなといひて火とりなをしかうしはなちていれたてまつるしゝうはさい院に
まいりかよふわか人にてこのころはなかりけりいよ　くあやしうひなひたるか
きりにてみならはぬ心ちそするいとゝうれふなりつるゆきかきたれいみしうふ
りけり空のけしきはけしうかせふきあれておほとなふらきえにけるをともしつ
くる人もなしかのものにをそはれしおりおほしいてられてあれたるさまはおと
らさめるをほとのせはう人けのすこしあるなとになくさめたれとすこううたて
いさとき心ちする夜のさまなりおかしうもあはれにもやうかへて心とまりぬへ
きありさまをいとむもれすくよかにてなにのはへなきをそくちをしうおほすか
らうしてあけぬるけしきなれはかうしてつからあけ給てまへのせむさいのゆき
をみたまふふみあけたるあともなくはる　くとあれわたりていみしうさひしけ
なるにふりいてゝゆかむ事もあはれにておかしきほとの空もみ給へつきせぬ御
心のへたてこそわりなけれとうらみきこえ給ふまたほのくらけれとゆきのひか
りにいとゝきよらにわかうみえ給ふをおい人ともゑみさかへてみたてまつるは
やいてさせ給へあちきなし心うつくしきこそなとをしへきこゆれはさすかに人
のきこゆる事をえいなひ給はぬ御心にてとかうひきつくろいてゐさりいて給へ
りみぬやうにてとのかたをなかめ給へれとしりめはたゝならすいかにそうちと
けまさりのいさゝかもあらはうれしからむとおほすもあなかちなる御心なりや
まつゐたけのたかくをせなかにみえ給ふにされはよとむねつふれぬうちつきて
あなかたわとみゆるものははなりけりふとめそとまるふけむほさつのゝりも
のとおほゆあさましうたかうのひらかにさきのかたすこしたりていろつきたる
事ことのほかにうたてありいろはゆきはつかしくしろうてさおにひたひつきこ
よなうはれたるになをしもかちなるおもやうはおほかたおとろおとろしうなか
きなるへしやせたまへる事いとをしけにさらほひてかたのほとなとはいたけな
るまてきぬのうへまてみゆなににのこりなうみあらはしつらむと思ものからめ
つらしきさまのしたれはさすかにうちみやられ給ふかしらつきかみのかゝりは
しもうつくしけにめてたしとおもひきこゆる人　くにもおさ　くおとるましう
うちきのすそにたまりてひかれたるほと一尺はかりあまりたらむとみゆきたま

へるものともをさへいひたつるもものいひさかなきやうなれとむかしものかたりにも人の御さうそくをこそまついひためれゆるしいろのわりなううはしらみたるひとかさねなこりなうくろきうちきかさねてうはきにはふるきのかはきぬいとききよらにかうはしきをき給へりこたいのゆへつきたる御さうそくなれとなをわかやかなる女の御よそひにはにけなうおとろおとろしき事いともてはやされたりされとけにこのかはなうてはたさむからましとみゆる御かほさまなるを心くるしとみ給ふなに事もいはれ給はすわれさへくちとちたる心ちしたまへとれいのしゝまも心みむととかうきこえ給ふにいたうはちらひてくちおほひしたまへるさへひなひふるめかしうこととこととしくきしき官のねりいてたるひちもちおほえてさすかにうちゑみ給へるけしきはしたなうすゝろひたりいとをしくあはれにていとゝいそきいて給ふたのもしき人なき御ありさまをみそめたる人にはうとからす思ひむつひ給はむこそほいある心ちすへけれゆるしなき御けしきなれはつらうなとことつけて

あさひさすのきのたるひはとけなからなとかつらゝのむすほゝるらむとの給へとたたむくとうちわらひていとくちをもけなるもいとおしけれはいて給ひぬ御車よせたる中もむのいといたうゆかみよろほひてよめにこそしるきなからもよろつかくろへたる事おほかりけれいとあはれにさひしくあれまとへるにまつのゆきのみあたゝかけにふりつめる山さとの心ちしてものあはれなるをかの人くのいひしむくらのかとはかうやうなる所なりけむかしけに心くるしくうたけならん人をこゝにするゑてうしろめたう恋しとおもはゝやあるましきものおもひはそれにまきれなむかしとおもふやうなるすみかにあはぬ御ありさまはとるへきかたなしと思ひなからわれならぬ人はましてみしのひてむやわかかうてみなれけるはこみこのうしろめたしとたくへをきたまひけむたましひのしるへなめりとそおほさるゝたち花の木のうつもれたるみすいしむめしてはらはせたまふうらやみかほにまつのきのをのれおきかへりてさとこほるゝゆきもなにたつすゑのとみゆるなとをいとふかゝらすともなたらかなるほとにあひしらはむ人もかなとみ給御車いつへきかとはまたあけさりけれはかきのあつかりたつねいてたれはおきなのいといみしきそいてきたるむすめにやむまこにやはしたなるおほきさの女のきぬはゆきにあひてすゝけまとひさむしと思へるけしきふかうてあやしきものに火をたゝほのかにいれてそてくゝみにもたりおきなかとをえあけやらねはよりてひきたすくるいとかたくなゝり御ともの人よりてそあけつる

ふりにけるかしらの雪をみるひともおとらすぬらすあさのそてかなわかきものはかたちかくれすとうちすし給ひても花の色にいてゝいとさむしとみえつる御をもかけふとおもひいてられてほゝゑまれたまふ頭中将にこれをみせたらむときいかなる事をよそへいはむつねにうかゝひくれはいまみつけられなむとすへなうおほす世のつねなるほとのことなる事なさならはおもひすてゝもやみぬへきをさたかにみたまひてのちは中　くあはれにいみしくてまめやかなるさまにつねにをとつれ給ふるきのかはならぬきぬあやわたなとおい人とものきるへきものゝたくひかのおきなのためまてかみしもおほしやりてたてまつり給ふかやうのまめやか事もはつかしけならぬを心やすくさるかたのうしろみにてはくゝまむとおもほしとりてさまことにさならぬうちとけわさもし給けりかのうつせみのうちとけたりしよひのそはめにはいとわろかりしかたちさまなれともてなしにかくされてくちおしうはあらさりきかしおとるへきほとの人なりやはけにしなにもよらぬわさなりけり心はせのなたらかにねたけなりしをまけてやみにしかなとものゝおりことにはおほしいつとしもくれぬ内のとのゐ所におはしますにたいふの命婦まいれり御けつりくしなとにはけさうたつすちなく心やすきものゝさすかにの給たはふれなとしてつかひならし給へれはめしなき時もきこゆへき事あるおりはまうのほりけりあやしき事の侍をきこえさせさらむもひか　くしうおもひ給へわつらひてとほゝゑみてきこえやらぬをなにさまの事そわれにはつゝむ事あらしとなむおもふとの給へはいかかはみつからのうれへはかしこくともまつこそはこれはいときこえさせにくゝなむといたうことこめたれはれいのえむなるとにくみ給かの宮より侍る御ふみとてとりいてたりましてこれはとりかくすへき事かはとてとり給ふもむねつふるみちのくにかみのあつこえたるにほひはかりはふかうしめ給へりいとようかきおほせたりうたも

からころも君かこゝろのつらけれはたもとはかくそそほちつゝのみ心えすうちかたふき給へるにつゝみにころもはこのおもりかにこたいなるうちをきてをしいてたりこれをいかてかはかたはらいたく思ひ給へさらむされとついたちの御よそひとてわさと侍めるをはしたなうはえかへし侍らすひとりひきこめ侍らむも人の御心たかひ侍へけれは御らむせさせてこそはときこゆれはひきこめられなむはからかりなましそてまきほさむ人もなき身にいとうれしき心さしにこそはとの給ひてことにものいはれ給はすさてもあさましのくちつきやこれこそはてつからの御事のかきりなめれ侍従こそとりなをすへかめれまたふてのしりとるはかせそなかへきといふかひなくおほす心をつくしてよみいて給つらむ

ほとをおほすにいともかしこきかたとはこれをもいふへかりけりとほゝゑみて
み給ふを命婦おもてあかみてみたてまつるいまやういろのえゆるすましくつや
なうふるめきたるなおしのうらうへひとしうこまやかなるいとなを　くしうつ
ま　くそみえたるあさましとおほすにこのふみをひろけなからはしにてならひ
すさひ給ふをそはめにみれは
　なつかしき色ともなしになにゝこのするゑつむ花をそてにふれけむ色こきは
なとみしかともなとかきけかし給ふ花のとかめをなをあるやうあらむとおもひ
あはするおり　くの月かけなとをいとおしきものからをかしうおもひなりぬ
　くれなゐのひと花ころもうすくともひたすらくたすなをしたてすは心くる
しのよやといいたうなれてひとりこつをよきにはあらねとかうやうのかいな
てにたにあらましかはとかへす　くくちをし人のほとの心くるしきになのくち
なむはさすかなりひとひとまいれはとりかくさむやかゝるわさは人のするもの
にやあらむとうちうめき給ふなにゝこらむせさせつらむわれさへ心なきやうに
といとはつかしくてやをらおりぬ又の日うへにさふらへはたいはむ所にさしの
そき給てくはやきのふのかへり事あやしく心はみすくさるゝとてなけ給へり女
はうたちなに事ならむとゆかしかるたゝ梅の花の色のことみかさの山のをとめ
をはすてゝとうたひすさひていて給ひぬるを命婦はいとおかしとおもふ心しら
ぬ人　くはなそ御ひとりゑみはととかめあへりあらすさむきしもあさにかいね
りこのめる花のいろあひやみえつらむ御つゝしりうたのいとおしきといへはあ
なかちなる御事かなこのなかにはにほへる花もなかめりさこむの命婦ひこのう
ねへやましらひつらむなと心もえすいひしろふ御かへりたてまつりたれは宮に
は女はうつとひてみめてけり
　あはぬよをへたつるなかのころもてにかさねていとゝみもしみよとやしろ
きかみにすてかひ給へるしもそなか　くおかしけなるつこもりの日ゆふつかた
かの御ころもはこに御れうとて人のたてまつれる御そひとくたりえひそめのを
りものゝ御そ又やまふきかなにそいろ　くみえて命婦そたてまつりたるありし
いろあひをわろしとやみたまひけんと思ひしらるれとかれはたくれなゐのおも
　くしかりしをやさりとももきえしとねひ人ともはさたむる御うたもこれよりの
はことはりきこえてしたゝかにこそあれ御かへりはたゝおかしきかたにこそな
とくち　くにいふひめ君もおほろけならてしいて給つるわさなれはものにかき
つけてをき給へりけりついたちのほとすきてことしおとこたうかあるへけれは
れいの所　くあそひのゝしり給ふにものさはかしけれとさひしき所のあはれに

をほしやらるれはなぬかの日のせちゑはてゝ夜にいりて御せむよりまかて給ひ
けるを御とのゐ所にやかてとまり給ぬるやうにてよふかしておはしたりれいの
ありさまよりはけはひうちそよめきよついたり君もすこしたをやき給へるけし
きもてつけたまへりいかにそあらためてひきかへたらむときとそおほしつゝけ
らるゝ日さしいつるほとにやすらひなしていて給ふひむかしのつまとをしあけ
たれはむかひたるらうのうへもなくあはれたれはひのあしほとなくさしいりて
ゆきすこしふりたるひかりにいとけさやかにみいれらる御なをしなとたてまつ
るをみいたしてすこしさしいてゝかたはらふし給つるかしらつきこほれいてた
るほといとめてたしおひなをりをみいてたらむ時とおほされてかうしひきあけ
給へりいとおしかりしものこりにあけもはて給はてけうそくををしよせてうち
かけて御ひくきのしとけなきをつくろひ給ふわりなうふるめきたるきやうたい
のからくしけかゝけのはこなととりいてたりさすかにおとこの御くさへほの
　くあるをされておかしとみ給ふ女の御さうそくけふはよつきたりとみゆるは
ありしはこの心はをさなからなりけりさもおほしよらすけふあるもむつきてし
るきうはきはかりそあやしとおほしけることしたにこゑすこしきかせたまへか
しまたるゝものはさしをかれて御けしきのあらたまらむなむゆかしきとの給へ
はさへつるはるはとからうしてわなゝかしいてたりさりやとしへぬるしるしよ
とうちわらひ給て夢かとそみるとうちすしていて給ふをみをくりてそひふし給
へりくちおほひのそはめよりなをかのすゑつむ花いとにほひやかにさしいてた
りみくるしのわさやとおほさる二条の院におはしたれはむらさきの君いともう
つくしきかたおひにてくれなゐはかうなつかしきもありけりとみゆるにむもん
のさくらのほそなかなよらかにきなしてなに心もなくてものし給ふさまいみし
うらうたしこたいのをは君の御なこりにてはくろめもまたしかりけるをひきつ
くろはせ給へれはまゆのけさやかになりたるもうつくしうきよらなり心からな
とかかううき世をみあつかふらむかく心くるしきものをもみてゐたらてとおほ
しつゝれいのもろともにひいなあそひし給ゑなとかきて色とり給よろつにおか
しうすさひちらし給けりわれもかきそへ給ふかみいとなかき女をかき給ひては
なにへにをつけてみ給ふにかたにかきてもみまうきさましたりわか御かけのき
やうたいにうつれるかいときよらなるをみ給ひててつからこのあかはなをかき
つけにほはしてみ給ふにかくよきかほたにさてましれらむはみくるしかるへか
りけりひめ君みていみしくわらひ給まろかかくかたはになりなむときいかなら
むとのたまへはうたてこそあらめとてさもやしみつかむとあやうく思ひ給へり

そらのこひをしてさらにこそしろまねようなきすさひわさなりやうちにいかにの給はむとすらむといとまめやかにの給をいと　くおしとおほしてよりてのこひ給へはへいちうかやうに色とりそへ給なあかゝらむはあえなむとたはふれ給さまいとおかしきいもせとみえ給へりひのいとうらゝかなるにいつしかとかすみはたれるこすゑともの心もとなき中にもむめはけしきはみほゝゑみわたれるとりわきてみゆはしかくしのもとのこうはいゝとゝくさく花にて色つきにけり

　くれなゐのはなそあやなくうとまるゝ梅のたちえはなつかしけれといてやとあいなくうちうめかれ給ふかゝる人　くのすゑすゑいかなりけむ